



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ソ連共産党の支配下の地方ソビエト : モスクワ市オクチャーブリ地区ソビエトの実証研究, 1988-90年
Author(s)	中村, 逸郎; Nakamura, Itsuro
Citation	スラヴ研究, 40, 23-41
Issue Date	1993
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/5211
Type	departmental bulletin paper
File Information	KJ00000113354.pdf



ソ連共産党の支配下の地方ソビエト

——モスクワ市オクチャブリ地区ソビエトの実証研究1988～90年——

中 村 逸 郎

1. 問題の提起

ソ連共産党は、1991年8月クーデター失敗の直後に解体してしまったが、長い間、ソ連社会における唯一の政治権力者であった。上は政府機関から、下は企業、農業施設、学校、軍隊など社会の底辺にいたるほとんどの職場に、党の末端組織である初級党組織を配置し⁽¹⁾、これらを通して社会の動きを統制してきた。

共産党は、旧ソ連邦憲法第6条の中で、ソ連社会の指導権力と定められ、唯一の政党として政治権力を独占してきた。社会の中に、他の政治勢力が合法的に存在しないために、共産党は、あからさまな政治闘争を行うようなことはなかった。ソ連社会のいたるところに党組織を張り巡らせ、政治権力を独占している共産党は、政党というよりも、ソ連国家そのものに近いと考えられた。

しかし正式には、ソ連邦を構成しているのは、共産党ではなく「ソビエト」である。ソビエトは、ソ連国家の立法機関であり、頂点にはソ連邦最高ソビエト、底辺には地区ソビエトまたは村ソビエトが位置する。これら頂点と底辺の間には、共和国ソビエト、州ソビエト、市ソビエトが介在し、ソビエトはソ連邦を構成する骨組みとなっている。

ところが、ソビエトは共産党に支配され、国家の立法機関としての自立性を失っている。正確に言えば、政治組織の共産党と立法機関のソビエトは性質的にはまったく別個の組織である。しかしそれにもかかわらず、現実には、両者は複雑に交わっている。共産党の指導機関は、ソビエトのピラミッド型の構成に対応して設置されており、各級ソビエトを共産党の各級機関が指導しているために、ソビエトの機能は形骸化してしまったのである。

共産党とソビエトの関係は、ソ連政治研究者にとって、ソ連政治を考える際の最も重要なテーマである。というのは、ソ連の政策はソビエトではなく、実際には共産党によって決定されているからである。そもそも共産党の決議は、党員にたいしてのみ拘束力をもっているものであって、非党員の国民を拘束するものではない。これにたいして、ソビエトの決議は建前的には、有権者によって選出された人民代議員が採択しており、党員であろうとなかろうと全国民を拘束する。このように共産党よりもソビエトのほうが、国民全体にあたえる影響力ははるかに大きいはずである。それにもかかわらず、ソ連国家の重要な政策はソビエトではなく、共産党によって決定され、共産党の決議が、そのままソ連国家の決定であるかのように考えられた。だが共産党の活動内容が秘密になっているために、政策決定過程はどのようなになっているのか、ソビエトと共産党はどう関係しているのかを解明することは困難であった。両者を区分けすることは、現実には不可能に近い、とロシア政治学会会長のシャフナザーロフも認めており⁽²⁾、両者の関係は、実証的に研究されてこなかった。

とりわけ、地区ソビエトと地区党委員会の関係は、欧米諸国だけではなく、ソ連国内の政治学者にも知られることがほとんどなく、地区ソビエトが政治学の研究対象になることはなかった。共産党の資料が非公開であったうえに、ほとんどの地区が固有の新聞を持っていないために、情報が入手できなかったからである。住民たちは、もっとも身近に接している政治から閉め出されていた。

そこで本稿では、モスクワ市の地区の一つであるオクチャーブリ地区ソビエトを事例にして、ソビエトがオクチャーブリ地区党委員会によってどのように統制されているかについて、実証的に検討する。そしてこの研究を通して、ソ連社会の底辺における重要な政治構造を解明する。

ゴルバチョフ元ソ連邦大統領は、1985年にソ連共産党書記長に就任し、共産党とソビエトのペレストロイカを唱えた。本稿では、1988年から90年までの期間を扱っているが、オクチャーブリ地区党委員会と地区ソビエトの内部資料を見る限り、ほとんど「ペレストロイカ」という言葉は出てこない。ペレストロイカが唱えられているにもかかわらず、共産党とソビエトはペレストロイカに関係なく旧来通りに活動している。

逆にいえば、このペレストロイカし切れない部分にこそ、ソ連政治の抱える本質的な問題が潜んでいる。じつはこの問題が、地区党委員会による地区ソビエトの支配なのであり、共産党そのものがペレストロイカの障害になっている。共産党の支配が続く限り、全国民の意思はソビエトを通して形成されず、ソビエトは共産党への単なる従属機関に過ぎない。地区党委員会は、地区ソビエトを従属下におくために「カードルの配置にたいする統制」「カードルの活動にたいする統制」「地区ソビエトの中の共産党組織を通しての統制」という三つの方法を用いて支配しており、本稿のねらいは、これらの方法を個別に分析し、共産党によるソビエトの支配を特徴づけることにある。

ところで、このような研究が可能となったのは、1988年以降、オクチャーブリ地区党委員会を研究対象に設定し、偶然にも党の資料を入手できたからである⁽³⁾。ただ注意を喚起しておきたいことは、オクチャーブリ地区というのは、ソ連の末端の一地域にすぎないということである。もちろん、すぐ後にオクチャーブリ地区の特徴について言及するが、この研究結果が、ソ連の政治全体にたいして、どれだけの普遍性をもっているかは疑問である。

しかし逆にいえば、本研究の普遍性は、ソ連の各地域について同様な研究を行い、その調査結果と比較しない限り証明されないが、それを行うことは現実には不可能に近い。というのは、1991年8月クーデターの後、地方レベルの共産党の資料はほとんど焼却されてしまったからである。ただ共産党の支配は、中央集権制を特徴としているために、オクチャーブリ地区で見られる共産党のソビエトにたいする統制形態は、ほかの地域でもほとんど同じであると推測できる。後で詳しく言及するが、たとえばオクチャーブリ地区ソビエトのカードル人事の慣習は、モスクワ市内のほかの地区でも同じである。

それはともかく、本稿では、オクチャーブリ地区の研究の限界を念頭に入れながら、事実を極端に抽象化することはできるだけ避けるように努める。

2. オクチャーブリ地区ソビエトの政治機構

ソビエトが共産党からどのような統制を受けているかについて分析するのが本稿の目的であるが、そのまえに、オクチャーブリ地区ソビエトの制度について紹介しよう。オクチャーブリ地区は、モスクワ市がかかえる32の地区の一つで、市のほぼ中央に位置し、モスクワ川にそって南北に細長く伸びている。北端はクレムリン宮殿にのぞみ、居住人口は23万人、労働人口は20万人である。この地区にはアカデミー機関が多く、学術の町と呼ばれている⁽⁴⁾。

オクチャーブリ地区人民代議員ソビエトの建物は、地区のほぼ中央にあり、オクチャーブリ地区党委員会と同じ建物の中に入っている。1、2階には地区ソビエトが、3、4階には地区党委員会がある。先にソビエトと交わる形で共産党の指導機関が設置されていると指摘したが、両者が同一の建物に入っている事実は、まさにこのことを象徴的に物語っているといえよう。

地区ソビエトは、人民代議員たちが構成する「ソビエト」（立法機関）と「執行委員会」（執行機関）から成っており、執行委員会は建前上、ソビエトが採択する決議を実施する義務を負っている。

地区ソビエトの人民代議員の定数は、地区の総人口に比例しており、オクチャーブリ地区ソビエトの場合は、300名である⁽⁵⁾。人民代議員の選挙は、通常2年半に一度、「小選挙区制」で実施され、地区全体が300の選挙区に分けられ、ひとつの選挙区から1名の人民代議員が選出される。

人民代議員の構成（1991年1月現在）をみると、共産党員は169名（全人民代議員の56%）、コムソモール員（共産党の青年組織）は55名（18%）である。共産党員とコムソモール員は、地区党委員会の指導下であり、全議席数の74%を占めている⁽⁶⁾。彼らが地区ソビエトの中で、どのような役割を果たしているかについては、後で詳しく分析する。

ここで注目しておきたいことは、人民代議員の95名（全人民代議員の32%）だけがオクチャーブリ地区に住んでいることである。なぜこのようなことになるかといえば、人民代議員の候補者の選出は、ほとんどの場合、地区内の職場で行われており、たとえオクチャーブリ地区に住んでいなくても、地区内の企業で働いていることを条件に、人民代議員の候補者に選出されるからである。オクチャーブリ地区に住んでいない人民代議員は68%を占め、この地区の生産活動のみに携わっているために、住居を拠点とするオクチャーブリ地区で生じる消費生活の問題については関わりが薄い。地区住民の劣悪な消費生活が、しばしば批判されるが、社会の末端レベルでソビエトの取り組みが弱くなっているのは、人民代議員の選出が生産単位を基盤にしているからである。

次に地区人民代議員300名は、二つのグループに分かれて活動しており、そのひとつは「小地域別人民代議員グループ」である。地区全体が24の小地域に分割され、人民代議員は、自分の選挙区が入っているグループに所属する。ひとつのグループの平均構成員は、12名である。人民代議員たちが構成するもうひとつの活動グループは、「企業別人民代議員グループ」で、地区内の四つの大工場で働く人民代議員が構成している。この工場とは、“クラスヌィ・プロレタリー”工場、オルジョニキーゼ名称機械制作工場、第2国立ベアリング工場、“クラスヌィ

・オクチャーブリ”工場といったソ連邦を代表する工場である。人民代議員が最も多いのは“クラスヌィ・オクチャーブリ”工場で、10名の人民代議員が勤務している。

また人民代議員300名は、問題別ごとに15の「常設委員会」に所属している⁽⁷⁾。委員会の名称は、「計画・予算委員会」「福祉と自然環境保全委員会」「日常生活サービス委員会」「女性の労働と生活、母と子の権利保護委員会」「青年問題委員会」「住居問題委員会」「社会保障委員会」「文化委員会」「国民教育委員会」「公共食堂委員会」「工業、交通、郵便委員会」「社会主義的合法性と社会秩序保全委員会」「建設委員会」「商業委員会」「体育教育とスポーツ委員会」である。各委員会の責任者は、議長である。

ところで人民代議員たちは、地区ソビエトの指導者となる議長、第一副議長、4人の副議長、書記を、自分たちの中から選出する。この7名の地区ソビエト人民代議員は、ソビエトの決議を実施する「執行委員会」の指導者として、専任で勤務している。彼ら以外の人民代議員は、専任で勤務しているわけではなく、通常は工場とか研究所といった本来の職場で働いている。ソビエトの開会中とか、所属する人民代議員グループや常設委員会の会合が開かれる時だけ活動する。

地区ソビエト議長は、ソビエトの立法機関と執行機関の最高責任者であり、副議長と書記には、担当問題が定められている。第一副議長には住宅問題、4人の副議長には各自、建設と設備改善の問題、工業と協同組合の問題、有料サービス企業の問題、商業問題、福祉・教育問題、書記には文化・スポーツの問題が割り当てられている。

地区ソビエト大会は年に3、4回開催されるが、閉幕期間にソビエトにかわって決議を採択する立法機関に「執行委員会会議」が設けられている。この会議は、13名から構成されており、2週間に一度開催される。会議の構成メンバーは、人民代議員たちによって選出され、地区ソビエト議長、5名の副議長、書記のほかに、7名の人民代議員が加わる⁽⁸⁾。このメンバーの選出に地区党委員会がどのように関わっているかについては、後で述べることにする。

執行委員会には、五つの部、「住宅経営・修理部」「工業・有料サービス発展部」「商業・公共給食部」「社会発展環境部」「総務部」がある。ここには、総勢86名の職員が勤務しており、彼らは一言でいえば官僚であって、人民代議員ではない。重要なことは、職員の60%が共産党員であり、執行委員会の中に設置されている「初級党組織」を構成していることである。この初級党組織は、地区党委員会に従属しており、執行委員会の中で果たす役割については、後で詳細に検討することにする。7人の党員から成る「党ビューロー」が、初級党組織の最高指導機関であり、書記は、地区ソビエト議長補佐官である。

3. 地区ソビエトにたいする地区党委員会の統制

(A) カードルの配置にたいする統制

地区ソビエトの指導者は、議長、副議長、書記である。ここでは彼らの全員が、共産党員であることに注目したい。しかも、これら7名の中の6名が、共産党の指導機関で活動したという経歴をもっている⁽⁹⁾。唯一の例外は、地区ソビエト議長で、党機関での活動経験をもたない。

彼は、オクチャーブリ修理・建設トラスト支配人、地区ソビエト第一副議長を経て議長に就任している。

地区ソビエト議長が党指導機関での勤務経験をもっていないのは、オクチャーブリ地区ソビエトでは、歴史的に振り返っても例外的なことではなく、またモスクワ市を見る限り、オクチャーブリ地区以外でもそのような事例はある。というのは、1970年代以降、共産党とソビエトは別個の組織であり、それぞれが自立性を有するべきだという議論が、ソ連の政治学者の間で公然と交わされるようになり、しばしばソ連政治に影響をあたえたからである。

ソ連の政治学者の間の議論については、ロナルド・ヒルがすでに1980年の著書で紹介している⁽¹⁰⁾。またアンドロポフやチェルネンコといったソ連共産党書記長たちが、ソ連最高ソビエト幹部会議長を兼任しなかったように、オクチャーブリ地区ソビエト議長が共産党の指導機関での活動経験をもっていないことは、驚くべきことではないのである。

他方で、地区ソビエト議長以外の全員の指導者が、党指導機関での活動を経験している。第一副議長は、オクチャーブリ地区党委員会の上級機関であるモスクワ市党委員会での勤務を経験し、残りの3人の副議長と書記は、オクチャーブリ地区党委員会で勤務していたことがあり、全員が部長という要職に就いていた。

このように、上級党機関と地区党委員会で活動したことがあるメンバーが、地区ソビエトの指導者として配置されている。たとえ地区ソビエト議長だけが、党の指導機関での活動経験をもたなくても、共産党とソビエトの間に関係に、支障がないような人員の配置になっている。

地区ソビエトと地区党委員会の関係をみる場合、とりわけ地区ソビエト書記の役割が大切であることがわかる。その理由は、彼が地区党委員会と地区ソビエト執行委員会の関係を直接に調整しているからである。

地区党委員会の事実上の最高議決機関である「ビューロー」会議のメンバーに、たしかに地区ソビエト議長が加わっている⁽¹¹⁾。ビューロー会議は、2週間に一度の割合で開催され、議長はこの会議に出席している。ビューロー会議の議題は、地区内の政治問題だけではなく、経済、商業活動、文化・スポーツといった全領域に及んでいる⁽¹²⁾。

他方で、地区ソビエト書記は、地区党委員会との実務的な関係を担当している。彼は、地区党委員会で毎週水曜日9時から開催される「事務会議」に出席し、定期的に地区党委員会との調整に当たる。この会議には、地区党委員会からは第一書記と2人の書記、5人の各部長が参加しており、地区ソビエト書記は彼らと定期的に接触している。議長が2週間に一度、ビューロー会議に参加しているのにたいして、書記は毎週地区党委員会の会議に出席していることからわかるように、書記の役割は重要である。

というのは、地区党委員会の中では、たしかにビューロー会議が最高議決機関になっているが、現実には地区党委員会で勤務する官僚たちの役割が大きいからである。官僚たちが作成する決議案がそのまま、ビューロー会議で承認されることがほとんどである⁽¹³⁾。したがって、ビューロー会議に出席する地区ソビエト議長よりも、党官僚たちとの毎週一度の会議に出席している地区ソビエト書記の役割が重要なのである。

地区党委員会と地区ソビエトの実務的な関係を円滑に進めるために、地区ソビエト書記に、地区党委員会組織部長が就任することが慣例となっている。この人事は、オクチャーブリ地区

ソビエトだけの例外ではなく、モスクワ市内のほかの地区ソビエトでもほとんどの場合そのようになっている。じつは後で述べるように、地区党委員会組織部長は、地区ソビエトを監督・指導する地区党委員会の責任者なのである。組織部長が、地区ソビエト書記に転出する限り、党とソビエトの関係は密接になりやすい。

カードルの配置の問題で、次に注目したいのは、地区ソビエト議長、副議長、書記が、地区党委員会総会の委員を兼任していることである。地区党委員会総会は、3カ月に一度開催され、地区党委員会の議決機関の一つになっている⁽¹⁴⁾。地区ソビエトの議長、副議長、書記は、地区党委員会総会に参加し、ここでの決議を党員として地区ソビエトで実施しなければならない義務を負っている。地区党委員会総会委員の氏名は、地区党委員会組織部が所有しているノーメンクラトゥーラに掲載されている⁽¹⁵⁾。

ここで少し補足しておきたいことは、地区ソビエトの大会が開催されていない期間中に、それにかかわる議決機関に「地区ソビエト執行委員会会議」があることだ。この会議のメンバーには、地区ソビエトからは議長、副議長、書記が、地区党委員会からは第一書記が参加している。第一書記は人民代議員であり、当然この会議のメンバーになる資格がある。第一書記はこのメンバーに選出されることによって、地区ソビエトの活動を指導できるのである。

(B) カードルの活動にたいする統制

地区ソビエトの指導者の全員が党員であり、その配置に地区党委員会が慎重であることについて述べてきた。彼らは、共産党員である限り、党の決議を実施すべき義務を負っている。地区党委員会は、地区ソビエト執行委員会の活動にたえず関心を払っており、地区ソビエトの指導者が、共産党員として、党の決議を確実に遂行しているかどうかについて、定期的に審査している。

ここで問題となるのは、地区ソビエト執行委員会の指導者は、党の決定に従わなければならないが、同時に人民代議員である限りでは、有権者にも拘束される点である。しかし共産党が、社会の唯一の支配勢力としてソビエトを支配している限り、地区ソビエトの指導者たちは、自分を選出した有権者よりも、共産党への忠誠心が大きい。共産党がソ連社会で権威を有している間、地区ソビエトの指導者たちは共産党と有権者の間の板挟みになることはない。

ただ、1989年3月に実施されたソ連邦人民代議員選挙で、エリツィンが党員候補者に圧勝した以降、共産党の権威が失墜し始め、90年3月に共産党の一党支配を保障していた憲法6条が削除され、ソ連社会に多党制が導入されると、地区ソビエトの指導者たちは、共産党と有権者の間に生じた意志と利害の溝に悩むことになる。この問題については、本稿の最後にもう一度考えることにする。

話を元に戻そう。地区ソビエトの指導者にたいする活動審査は、地区党委員会ビューロー会議で実施されている。1988年と89年には、2人の指導者(ゲラシモフ副議長とステェシャコーフ第一副議長)にたいする活動審査が実施された。

ここでは、地区内の住居問題を担当しているステェシャコーフの審査内容を紹介し、地区ソビエトの指導者にたいする共産党の統制の特質について考える。ビューロー会議に提出された

「ステェシャコーフの活動報告書」に署名しているのは、地区党委員会第一書記である。ビューロー会議議事録⁽¹⁶⁾を、少し長くなるが引用してみよう。

同志ステェシャコーフ・コンスタンティン・ドミトリーヴィチ、1945年生、ロシア人、70年に入党、高等教育終了、74年にプレハーノフ名称モスクワ国民経済大学卒業、専攻は労働経済。63年にオレンブルク州サラクタシュシキー地区財政部で経済専門家として勤務。64年から67年までソ連軍に服役。68年から74年までモスクワ市内の鉄鋼組立第2コンビナートで技術者として勤務。74年から77年までこのコンビナートの党ビューロー専従書記、77年から80年までソ連共産党ヴォルゴグラード地区党委員会工業・交通部長、80年から86年までモスクワ市党委員会経済部員。

モスクワ市党委員会の職務にある時、オクチャーブリ地区の諸問題に誠実に対処し、81年にオクチャーブリ地区ソビエト人民代議員に初当選し、86年4月から地区ソビエト第一副議長に就任、住居問題と水道、ガス、電気の供給問題を担当している。常識と指導性を備えた活動家として、問題の解決にむけて、地区内の経営幹部を動員するのに成功した。市民と定期的に面会し、「公開状の日」と「直通電話」の開催に積極的に参加し、党员集会では、地区ソビエト執行委員会初級党組織党ビューロー活動の改善のための具体的な提案を行っている。

しかし同時に、ステェシャコーフは、地区ソビエト第一副議長としての活動に、怠慢と欠陥が見られる。彼の管理する部局のどれもが、活動の一貫性と整合性を欠いている。幹部の責任を、厳しく追求しておらず、ブリガード制の導入に積極的でない。また第一副議長であるにもかかわらず、上級ソビエトと地区ソビエトの決議の実施に充分な関心を払っていない。住民の投書で提起される問題に充分な注意を払っていないために、生活環境の整備、粗大ゴミの撤去が、適時に実施されていないことを指摘する苦情がいつこうに減少しない。他方で、共産党の上級機関と上級ソビエト機関へ訴える投書が増えている。

アパートの居住者を、修理期間中に別の場所に引っ越しさせる問題が、間違っただけで計画されている。さらにアパートの修理がしばしば悪質で、実際に入居できないことがある。またパートの入居状況をきちんと管理していないために、空いている住居を有効的に運用できずにいる。このような議論の余地のない問題は、ステェシャコーフが担当する地区ソビエト執行委員会の活動の誤りによって引き起こされている。

以上に引用した地区党委員会ビューロー会議の「ステェシャコーフ活動報告書」の内容について検討しよう。まず最初の段落で、ステェシャコーフの経歴が紹介され、次に彼の活動が高く評価されている。しかし、さらに続けて読むと、彼の活動についての本格的な審査は、これから始まることになる。つまり、活動の欠陥についての指摘へと移っていくのである。

活動報告書の構成は、ビューロー会議に提出される他の文書のパターンと同じで、評価から欠陥の指摘への移行部分の書き出しは、「しかし同時に」という言葉でもって始まる⁽¹⁷⁾。ステェシャコーフの活動についての指摘は確かに厳しいが、その内容はイデオロギー的なものではなく、むしろ彼の行政官としての実務能力が批判されているのが特徴である。だが、一般に長所と短所は複雑に絡み合っており、「しかし同時に」という言葉でもって、単に並列される

ほどに単純ではない。地区ソビエトの指導者にたいする活動審査は、機械的に活動の長所と短所だけをあげているようである。そのようになる原因は、地区党委員会自体が、地区ソビエトについての政策をもっていないからである。もし何らかの政策をもっているならば、活動審査はもっと体系的になるはずである。

ステェシャコーフにたいする批判を行った後、ビューロー会議は、彼が欠陥を克服するために努力している今日の姿勢を評価し、次のように決議している。

以上のことにかんして注目しておくべきことは、ステェシャコーフは自分の専門的知識と政治的知識を向上させようと常に努力していることである。86年にソ連邦閣僚会議付属国民経済アカデミー国家管理上級指導者資格向上大学で学習し、現在は政治学習システムにもとづいて独自に学んでいる。地区ソビエト執行委員会の中で、彼は今では権威と尊敬を得ている。

1. 地区ソビエト第一副議長ステェシャコーフК.Д.の活動を承認する。
2. 地区ソビエト執行委員会(同志ラリオーフЮ.И.)は、地区ソビエト第一副議長ステェシャコーフの活動にかんして指摘された欠陥を克服するために、必要な援助を提供しなければならない。党員ステェシャコーフにたいする党員証明書を承認する。

(C) 地区ソビエトの中の共産党組織を通しての統制

地区ソビエトの中には、共産党に所属する人民代議員たちが構成する「党グループ」と地区ソビエト執行委員会の専従職員の中の共産党員たちが参加する「初級党組織」がある。地区党委員会は、この二つの党組織を通して、地区ソビエトを統制している。

a. 党グループ

「党グループ」とは、共産党が各職場に設置している初級党組織とは別の党組織である。党グループは、ソビエトと社会団体の中に党員数が3名以上いることを条件に設置される⁽¹⁸⁾。オクチャーブリ地区ソビエト人民代議員の中にも、共産党員たちが構成する党グループが組織されている。90年1月現在、300人の人民代議員の中の169人が共産党員または党員候補者で、全体の56%を占めている。

党グループの活動を指導するのは、これに対応して設置されている共産党の指導機関である。たとえばソビエトは、連邦レベルから末端の地区レベルにまで設置されており、上から順にソ連共産党中央委員会、共和国共産党、州党委員会、市党委員会、地区党委員会のどれかが、対応するソビエトの党グループを指導している。

地区ソビエト人民代議員の党グループを指導しているのは、人民代議員である地区党委員会の第一書記と組織部長である。党グループの指導者は「党グループ議長」で、これには第一書記、「党グループ副議長」には組織部長が就任することが慣例となっている。この人選は、党グループの会議で正式に承認される。

党グループの活動を日常的に管理しているのは、地区党委員会組織部長で、党グループの会議で検討される問題を作成している。すでに述べたように、組織部長は地区ソビエト書記に転

出ることが多いが、その理由は、組織部長は地区ソビエトの活動に精通しているからである。

ところで、党グループの会議は、3カ月に一度開催されており、主な議題は、「党员・人民代議員の活動報告」「地区ソビエトの指導者の配置の問題」「地区ソビエトに設置されている常設委員会の構成メンバーの選抜」である。これらの議題は、地区党委員会組織部が作成しており、以下では各議題について検討してみよう。

地区ソビエトの要職に就いている人民代議員は、党员としての活動報告を党员グループ会議で求められる。89年の党员・人民代議員の活動報告実施計画⁽¹⁹⁾は、以下の通りである。代議員に質問したところ、会議では人民代議員が活動内容を報告し、簡単に事務的な質疑応答を交わして終了し、政策論争が行われることはないという。

1. 党员・代議員同志シェヴェレョーフ(第19小地域代議員グループ議長)の住民活動への参加についての報告。
2. 党员・代議員同志ゲラーシモフ(地区ソビエト執行委員会副議長)が担当する地区ソビエト執行委員会の部局のカードルの選抜、配置、養成に関する活動報告。
3. 党员・代議員同志ゴルジエーンコの常設商業委員会での活動報告。
4. 地区人民代議員ソビエト選挙の準備に関する党员・代議員の任務について。

ところで、党グループの最も重要な活動は、地区ソビエトの新指導部を地区ソビエトに推薦することである。党员・人民代議員は、全人民代議員の56%を占めていることについてはすでに指摘したが、党グループの決議は、地区ソビエト大会での決議の採択に通じる。このため党グループ会議は、非常に重要なのである。新指導部の人事案は、党グループの副議長である地区党委員会組織部長が作成し、まず地区党委員会ビューロー会議で検討され、その後で党グループの会議に提出される。地区ソビエトの指導部の新しいメンバーについて審議する党グループの会議は、地区ソビエト人民代議員選挙後に開会される、地区ソビエトの第1回目の大会が始まる直前(通常は4時間前)に開催される。

第20次オクチャブリ地区ソビエト人民代議員大会の開幕に先だって、87年7月2日に開催された党グループ会議を、速記録を用いて以下に再現しよう⁽²⁰⁾。出席した人民代議員数は151名、18名が欠席した。最初に地区ソビエトの新指導部の選抜から始まった。司会を務める地区党委員会第一書記の発言から紹介しよう。

同志諸君、今日党グループ会議に出席を登録する際、地区ソビエトの新しい指導部の人事案を受け取られたはずですが。全員が受け取りましたか。……はい。私が草案を読み上げます。地区ソビエト議長に、ラリオーフ・ユーリー・イヴァーノヴィチを推薦する提案があります。全員が彼を知っていますね。質問がありますか。なし。彼はこの役職には1981年から就いています。

地区ソビエト第一副議長には、ステシャーフ・コンスターチン・ドミトリーヴッチを推薦する提案があります。地区ソビエトの4人の副議長には、新人のアノーヒン・アンドレイ・イ

ヴァーノヴィチ、1981年2月から就任しているゲラーシモフ・ヴラジミール・イヴァーノヴィチ、さらに1986年5月から就いているゴンチャーロフ・ヴァレーリ・ドミトリーエヴィチ、1982年から勤務しているリャボウヴァ・ライーサ・イヴァーノヴィチの提案があります。そして最後に、地区ソビエト書記には、1985年から勤務しているグラードシェフ・ヴラジミール・ヴラジミールヴィチの提案があります。

では、候補者の一人ひとりにたいする質問に移ります。ラリオーフ・ユーリー・イヴァーノヴィチ(地区ソビエト議長)への質問、反対、または辞退がありますか。……なし。彼をオクチャーブリ地区ソビエト議長に選出するように、地区ソビエトに推薦することに賛成の諸君は挙手をお願いします。……反対の人は。……なし。棄権する人は。……なし。全員一致で採択されました

地区ソビエト議長と同様に、副議長にたいしても会場から質問が出ず、地区ソビエト議長と副議長の各候補者を、地区ソビエトに推薦することが全員一致で決まった。ここで注目すべきことは、推薦の理由、候補者の政見演説などがまったく行われなかったことである。党グループ会議は重要な役割を担っているにもかかわらず、ただ一方的に各候補者の氏名が読み上げられるだけで、政策論争やポストをめぐる権力抗争といった、政治でおなじみの風景は見られない。

次に地区ソビエトが開催されていない期間中に、地区ソビエトとしての決議を採択する「地区ソビエト人民代議員執行委員会会議」の13名のメンバーの選出に移った。地区党委員会第一書記が、13名の候補者の氏名を読み上げ、各人の職業と勤務場所を紹介した。候補者の中には、2名の非党員が含まれているが、人民代議員の間で名前の知れている人ばかりで、地区党委員会第一書記の紹介も簡単である。

地区ソビエト執行委員会会議に、次の同志諸君を推薦するよという提案があります。ヴィノグラダ・ナターリア・ヴィクトローヴナ、彼女は非党員ですが、仕事がよくできることについては、諸君もご存知のことと思います。ジレーズノーバ・ユーリヤ・ドミトリーエヴィチャ、彼女は鉄鋼・鋼鉄大学の学長です。ピズロードナヤ・ガリーナ・ペトローヴィチ(第19中学校長)は、今回はじめて推薦されましたが、彼女が勤務する中学校の運営は良好です。

私の名前、スヴェーチク・フョードル・フョードロヴィチも挙がっています。……(省略)……アノーヒン・アンドレイ・イヴァノヴィチ、彼はこのメンバーにはじめて推薦されました。もしかすると、なにか質問があるのではないのでしょうか。現在彼は、“クラスヌィ・プロレタリー”工場の党委員会副書記として働いています。多くの人たちが、彼を知っているはずで。彼は建設工事に従事したことがあり、このことを考慮して、推薦されました。

リャボウヴァ・ライーサ・イヴァーノヴナ、彼女は以前から私たちと一緒に働いています。彼女の能力については、すでに点検済みです。彼女にたいする質問はないでしょう。彼女を抜擢したいとする上級機関から、彼女を取り上げるのにたいへんな苦勞をしました。彼女を推薦することに賛成の諸君は挙手をお願いします。……なし。棄権する人は。……なし。全員一致で採択されました。

以上のようにして、地区ソビエトに提出される地区ソビエト執行委員会会議の13名の候補者が決定した。次に党グループの会議は、地区ソビエトにおいて、誰がこれらの候補者を提案するかの議題に移り、慣習に従って、人民代議員である地区党委員会第二書記が提案することを決定した。

さらに党グループ会議は、地区ソビエトで選出することになる地区ソビエト執行委員会を構成する各部の部長の候補者について検討した。従来、部長の全員が地区ソビエト人民代議員であったが、今回は3分の2が人民代議員ではない人物が選ばれている。地区党委員会第一書記は、「部長というポストは、たいへん責任が重い仕事で、人民代議員が部長を兼任すると、余計な負担を与える」ことになると説明した。このために、人民代議員が部長になるケースは少なくなっている。地区ソビエトに部長の候補者を推薦するのは、地区ソビエト議長と決まった。

地区ソビエト人民代議員は、地区ソビエトの中に設置されている15の常設委員会を構成していることについては、すでに述べた。党グループの会議では、地区ソビエトで選出される各常設委員会の議長の候補者についても予め討議する。ここでは、今回の党グループ会議でおこった唯一のハプニングを再現しよう。

地区党委員会第一書記「商業常設委員会の議長に、チューピン・ユーリー・アレクサンドロヴィチ人民代議員(デパート“モスクワ”の支配人)を推薦したいと思います。彼は、この半年間を見る限り、デパートに課せられた経済計画の達成に失敗しました。このような企業幹部を推薦することについては、諸君の理解を得ることができないのではないのでしょうか」

チューピン「デパート“モスクワ”は、計画の90%の商品しか販売できず、たしかに困難な状態にあります。この原因は、商品がデパートに納入されなかったことにあります。私たちは、商品の不足を、どこにも訴えることができないのです。商業常設委員会の議長への立候補は、辞退します」

会場から「商品流通計画が達成されなかった責任は、具体的には誰にあるのですか」

チューピン「“家具の家”、モスクワ洋服、その他の多くの組織のせいです」

会場から「“家具の家”は、6月だけで425万ルーブリに相当する商品を納入しています」

チューピン「私たちが、オクチャーブリ地区の深刻な事態について、何も心配していないと間違っ理解されています。私たちは真剣に努力していますが、どうしても仕事がうまく進まないのです」

会場から「彼の辞退を支持したいと思います」

地区党委員会第一書記「おそらく次回の地区党委員会ビューロー会議で、この問題に党としての判断をくだすことになるでしょう。採決しましょう。二つの提案がありました。一つは彼を議長に推薦する、もう一つは辞退を承認する。彼を商業委員会議長に推薦することに賛成の人は、挙手をお願いします。……推薦しないことに賛成の人は、挙手をお願いします。……棄権する人は。……なし。この結果、地区ソビエトにたいして、彼を推薦しないことにします。ほかに誰か候補者がいますか」

フョードロフ(地区ソビエト書記)「ザボーチナ・タチャーナ・ヴィクトローヴナを推薦します」

地区党委員会第一書記「グリゴリエフを選出したいとする人民代議員もいます。彼は企業の支配人ですが、以前、地区党委員会商業・日常サービス部員でした。私は、この提案は道理にかなっていると思います。同志諸君、如何ですか。ザボーチナ・タチャーナ・ヴィクトローヴナを推薦するという提案もあります。彼女は地区党委員会商業・日常サービス部長、地区ソビエト商業委員会議長で、活動的人物です。そのほかに提案がありますか。……なし。グリゴリエフを推薦することに賛成の人は、挙手をお願いします。……反対の人は。……なし。棄権する人は。……なし。圧倒的多数で採択されました」

なぜ、引用した部分がハブニングかといえば、地区党委員会組織部が推薦したチューピン人民代議員が党グループ会議で承認されなかったからである。通常は、地区党委員会の提案が、党グループ会議で採択されないことはほとんどない。

地区ソビエト商業委員会議長に、地区党委員会の商業・日常サービス部員であった人物が候補者として選出されたことは、地区党委員会と地区ソビエトの結び付きを証明している。

党グループ会議は、15の各常設委員会議長を、誰が地区ソビエトに提案するのかについて検討し、地区ソビエト書記を選出した。

このように党グループ会議は、地区ソビエトの大会に提出する地区ソビエト執行委員会の新しいメンバーを決定した。さらに党グループ会議は、地区ソビエトの新しい会期が始まるにあたって、開会を宣言する人民代議員までも決めた。

地区党委員会第一書記「同志諸君、地区ソビエトの新しい会期が始まるにあたって、誰に開会宣言を委任するかについて協議したいと思います。慣習では、年長者がいつも開会宣言を行っています。最古参は誰ですか」

会場から「アンナ・ヴェニアミーノヴナ・コヴァレールチュクです」

地区党委員会第一書記「その通りです。彼女は、たしかに最古参ですが、実際にはまだ若い。彼女は、尊敬されている医者で、祖国戦争では活躍されました。反対はありませんか。……なし。採択されました」

すでに指摘したように、地区ソビエト人民代議員の中の56%、コムソモール員も含めると74%の人民代議員が、地区党委員会に従属している。党員・人民代議員は全体の過半数以上を占めており、党グループの会議には人事問題と大会の筋書きが事前に提案される。しかし、党グループ会議の役割は重要であるにもかかわらず、人民代議員たちは党グループ会議において、地区党委員会から人事問題などで十分な説明と相談を受けておらず、また人民代議員の間でこれらの問題について議論しているわけではない。党員・人民代議員たちは、いわば地区ソビエトにおいて、党の決議案が採択されるように単に動員されているだけである。

b. 地区ソビエト執行委員会の中の初級党組織

オクチャーブリ地区ソビエト執行委員会には、指導者も含めて86名の職員が勤務している。彼らの中の党員数は、1988年11月1日現在で、53名(全職員の62%)である。党員の年齢別の内訳は、次の通りである⁽²¹⁾。

30歳以下 3名(6%)

31歳以上～40歳以下 14名 (26%)

41歳以上～60歳以下 19名 (36%)

61歳以上 17名 (32%)

61歳以上の職員の割合が高いのが、目を引く。彼らの多くは、以前に地区党委員会で勤務したことのある年金生活者で、地区ソビエトは党指導機関員の絶好の天下り先となっている。地区ソビエト執行委員会初級党組織ビューロー会議の資料⁽²²⁾によれば、党員を学歴別に見ると高等教育終了者(大学卒)は39名(74%)、それ以外は14名(26%)で、高等教育終了者が多い。

53人の党員は、初級党組織を構成し、3カ月に一度党員集会が開催されている。党員集会で彼らは、地区ソビエト執行委員会の中で、党員としてどのような党活動をしているかについて報告する。彼らは地区ソビエト執行委員会の職員として、地区ソビエトの決議事項を執行するのが本来の任務であるが、党員である限り、共産党の決議にも拘束される。共産党の一党支配が保障され、地区ソビエトの決議と党の決議の間に矛盾や対立が存在しない場合は、職員たちは地区ソビエト執行委員会の職員としての任務と党員としての任務の間に、矛盾を感じていないのである。

1989年に開催された党員集会の数は4回で、議事項目⁽²³⁾は次の通りである。

1989年2月

- a/ 第34回オクチャーブリ地区党組織協議会について。協議会の代議員同志イクーシンの報告。
- b/ 第27回モスクワ市党組織協議会について。協議会の代議員同志地区ソビエト執行委員会議長ラリオノフの報告。

1989年4月

- ・ ソ連邦人民代議員選挙の総括と地方ソビエト選挙の準備に向けての党員の任務について。

1989年8月

- ・ 地区ソビエト執行委員会の党員および非党員にたいするイデオロギー的、大衆・政治的、教育的活動に関する党組織の任務について。

1989年10月

- ・ 現在における党員の任務について。

上記の議題からわかるように、党員集会では地区ソビエトの活動について何か問題が提起され、政策論争が行われているわけではない。たとえば、1989年4月の党員集会では、地方ソビエト選挙にむけての党員の任務が議題であったが、ポスターの掲示を誰が担当するかについて打ち合わせを行っただけで、選挙にむけての共産党としての対策を議論したわけではない。

じつは、この党員集会が開催される1カ月前に実施されたソ連邦人民代議員選挙のモスクワ民族区(定数1名)で、エリツィンが党員候補者に圧勝しており、1年後に実施される地方ソビエト選挙では、地区党委員会の敗北という危険性が迫っていたにもかかわらず、党員集会ではこの問題は議論されていない。

ところで、オクチャブリ地区ソビエト執行委員会の初級党組織は、下部党組織としての「職場党組織」と「党グループ」を有しておらず、党ビューローが初級党組織を直接に指導している。党ビューローは、7名から構成されている。書記(地区ソビエト議長補佐官)と2人の副書記(1人は地区ソビエト執行委員会カードル・セクター長、もう1人は議事録セクター長)が、党ビューローの構成員である。副書記の1人はイデオロギー問題を、もう1人は組織問題(党員費を含む)を担当している。

そのほかの4人の党ビューロー構成員は、地区ソビエト副議長、商業部の職員、2人の事務職員(タイピスト)である。

党員集会と党ビューローの会議では、党員の資格審査が実施されている。例えば1985年10月から1988年10月までの3年間では、党員集会において2人の党員の報告、党ビューローにおいて12人の党員の報告が行われ、彼らの活動は承認された。他方で報告もなく単に機械的に活動が承認された党員の数は、20名に達する⁽²⁴⁾。

オクチャブリ地区ソビエト執行委員会の党ビューローの会議は、原則として毎月1回開催されている。1989年の党ビューロー会議議事項目をみると、たとえば「地区ソビエト執行委員会職員の1990年度の新新聞、雑誌の購読について」「1988年度の地区ソビエト執行委員会職員の政治学習の総括と新年度における政治学習の組織化について」といったように、非政治的な内容がほとんどである⁽²⁵⁾。

4. 結 論

いったん政治権力を握った政党は、それを容易に手放すものではない。政治権力は、常に自己目的化し、権力を集中させる傾向をもつ。ソ連共産党は、一党支配を徹底させており、地区党委員会は、住民によって直接に選挙され、住民の利益を代表すべき地区ソビエトを支配している。このためソビエトは、立法機関としての自立性を失い、ソ連国家の政策は共産党によって決定されているのである。

共産党は一般には、高度に政治的な組織だと見られている。ここで「政治的」ということばを定義すれば、政策を提言し、イデオロギーを説き、権力を掌握するために他の勢力と闘争することである。つまり政治には、政策論争と権力闘争はつきものなのである。ところが地区党委員会によるソビエトの支配は、イデオロギー的どころか、逆にたいへん非政治的なのである。地区党委員会は、党幹部を地区ソビエトのカードルに配置し、地区党委員会の提案が地区

ソビエトですみやかに採択されるように、党員・人民代議員を動員するだけである。ソビエトは本来、政治の場のはずであるが、共産党に支配されることによって、政治が閉め出されている。

なぜ地区党委員会の地区ソビエトにたいする支配は、非政治的になってしまうのであろうか。その理由は、共産党が政治権力を独占し、対抗する政治勢力をもたないからである。共産党は、自らの論理に基づいて、政治権力を維持するだけである。

しかし共産党によるソビエトのこのような支配は、社会が政治化すると、一挙に崩壊することになる。共産党による支配そのものが、国民によって政治の問題として提起されると、党はこの問題に政治的に対応することができないのである。

実際に、1990年3月の地方ソビエトの選挙は、地方政治としてははじめて複数候補制で実施され、新しく誕生した政党は共産党の一党支配に政治的な論争を挑んだ。オクチャーブリ地区では、共産党の推薦する候補者は、この挑戦に対処できずに、相次いで落選してしまった。選挙の結果、共産党に所属する人民代議員の割合は、全議席の20%に急落し、共産党は少数野党に転落してしまった。

それにかわって、反共産党勢力である「民主ロシア」と「自由民主党」に属する人民代議員が大幅に議席を獲得することになった。そして地区ソビエトの議長には、非共産党員が選出される事態にまで発展した。反共産党勢力の勝利を契機にして、地方ソビエトの機構の改革が実施され、共産党の支配は完全に排除されることになった。そして、本稿の冒頭で述べたように、1991年8月クーデターの失敗を契機に、共産党は消滅することになったのである。

- 注 -

- 1 初級党組織は、原則として、党員が3名以上いる職場に設置される。党員が2名以下の職場の労働者、働いていない主婦、年金生活者は、居住区に設置される「地域初級党組織」で党員登録が行われる。オクチャーブリ地区には、10の地域初級党組織があり、1989年10月現在で、5597人が登録している。その内訳は、専業主婦が約150人、協同組合(コーペラチーフ)で働く党員が約30人、残りの5400人(全体の97%)が年金生活者である。年金生活者が圧倒的に多いために、地域初級党組織の活動は、活発ではない。
- 2 Шахназаров, Социалистическая демократия, М., 1972 г.
- 3 本稿で用いる資料は、著者が1988年9月から90年5月まで、モスクワ市オクチャーブリ地区に滞在していた期間に、オクチャーブリ地区党委員会とオクチャーブリ地区人民代議員ソビエト執行委員会で収集したものである。当時、オクチャーブリ地区党委員会を訪問するには、大きな困難が待ち受けていた。建物の入口では、民警が日夜警備についており、モスクワ市民さらには一般党員の訪問でさえ、厳しく制限されていた。著者は、民警と何度も交渉を重ねたすえに、まずオクチャーブリ地区人民代議員ソビエト執行委員会書記の訪問を許可された。

彼との定期的な接触を通して、オクチャーブリ地区の行政機構を学んだ。著者は、彼

が建物内にある職員食堂を自由に利用できるように配慮してくれたおかげで、そこで最初に地区党委員会機関員と地区人民代議員ソビエト執行委員会職員の名前と顔を覚え、次に彼らの間の人間関係を観察することができた。

彼らの多くは、出世主義者であるが、その活動は到底遵守することが不可能なほどの厳しい規律によって拘束されている。このために、彼らの人間関係はぎしぎししており、気の合わないもの同士はほとんど口をきかない。この緊張が、地区党委員会の中の一種の「恐さ」を醸し出している。彼らの人間関係の観察は、資料の分析の際に、大いに役だった。

著者は、最初の訪問から2ヵ月後に、地区党委員会第一書記補佐官と知り合った。そして、彼の紹介で地区党委員会の5人の部長にインタビューを行い、地区党委員会と地区ソビエトの概要を知ることができた。この概要を通して、著者の念頭に浮かんできた問題意識をもとに、第一書記補佐官と5人の部長を中心に、資料の閲覧を依頼した。その閲覧がかなえられるとは思ってもいなかったが、挑戦してみた。著者の要求は、実際にほとんどみたされることがなく、逆に疑われたりした。

しかし半年が過ぎたころから、特に第一書記補佐官、組織部長、イデオロギー部長、財政・経営部長が、著者の研究に関心を示すようになり、内部資料、例えば「議事録」「速記録」「文書作業規定」といった秘密資料までも提供してくれるようになった。これらの資料は、一般党员はもちろんのこと、地区党委員会の議決機関のメンバーでさえも読むことができない貴重なものばかりである。最終的には、309点の資料を入手した。

他方で、著者にたいする彼らの態度が厳しくなり、他の職員との交際や入手した資料の保存方法について注意を受けるようになった。このような機会に巡り会うことができたのは、ペレストロイカにともなう社会の雰囲気の変化があったからであろう。しかしペレストロイカを指導すべき共産党が当時、逆にペレストロイカの流れから遅れをとっており、このような機会はまったくの偶然と彼らの個人的な厚意によるものであったにちがいない。

- 4 オクチャーブリ地区についてのきちんとした統計が公表されているわけではない。このため、オクチャーブリ地区党組織協議会代議員に配布された資料を参考にした。

СТАТИЧЕСКИЕ ПОКАЗАТЕЛИ, характеризующие социально-экономическое развитие района в двенадцатой пятилетке: Материалы для делегатов XXXIV конференции Октябрьской районной организации КПСС.

- 5 1991年3月の地方ソビエト選挙では、人民代議員の定数は150名に削減された。

- 6 СТАТИЧЕСКИЕ ПОКАЗАТЕЛИ, характеризующие социально-экономическое развитие района в двенадцатой пятилетке: Материалы для делегатов XXXIV конференции Октябрьской районной организации КПСС.

- 7 СОСТАВЫ постоянных комиссий.

- 8 7名の人民代議員の内の2名が非党员である。

- 9 経歴については、すべて聞き取り調査。

- 10 R. ヒル、菊井禮次訳『ソ連の政治改革』世界思想社、1984年、126頁。

- 11 「ビューロー会議」は、3カ月に一度開催される地区党委員会総会と総会の際に、総会にかわって重要な問題を決定する議決機関である。ビューロー会議は、オクチャーブリ地区党委員会の場合、2週間に一度、木曜日の午後3時に、非公開で開催される。ビューロー会議の構成人数を定めた規定はなく、通常は9名から13名前後である。この構成員の任期は、特に定められておらず、オクチャーブリ地区党委員会の場合は約2、3年である。ビューロー会議の構成員の内訳は、地区党委員会書記が3名、地区ソビエト議長、初級党組織の書記が3名、企業長が4名、一般労働者が2名である。
- 12 ビューロー会議の議題は、3カ月おきに作成される。議題の総数は、1986年は144件、87年は137件、88年は120件である。1988年の議題を分類すると、党内問題は47件(39%)、商業と教育問題は51件(43%)、企業の経営問題は22件(18%)である。
- 13 ビューロー会議の資料は、地区党委員会の中の議題に関係する担当部が作成する。担当部は、ビューロー会議の15日以上まえに、担当責任者を中心に決議案、報告書、必要な時には付録を作成する。担当部は、ビューロー会議で提出された意見、批判をもとにして決議案を作成しなおすことになるが、実際にはほとんど訂正することはないという。
- 14 地区党委員会総会は、3カ月に一度開催される。会期は、ほとんどの場合、1日である。地区党委員会総会は、委員103名と委員候補23名から構成されている。
- 15 1990年1月現在、オクチャーブリ地区党委員会には、900人のノーメンクラトゥーラがいた。その内訳は、地区党委員会総会委員が103人、ビューロー会議のメンバーが13人、地区党委員会機関員が58人、主要な企業の初級党組織の書記が約400人、大企業の支配人が約200人、初級党組織の専従職員が124人である。
- 16 ПРОТОКОЛ № 3 заседания бюро Октябрьского РК КПСС от “26” января 1988 г.
- 17 今回およそ30点の議事録を入手したが、そのパターンは同一である。
- 18 Устав Коммунистической партии советского союза, М., 1988.
- 19 ПЛАН работы партийной группы Октябрьского районного совета народных депутатов.
- 20 СТЕНОГРАММА заседания партийной группы Октябрьского районного Совета народных депутатов г.Москвы от 2 июля 1987 года.
- 21 ОТЧЕТНЫЙ ДОКЛАД партийного бюро первичной партийной организации аппарата исполкома Октябрьского райсовета народных депутатов о работе за период с октября 1985 г. по октябрь 1988 г.
- 22 Так же.
- 23 ПЛАН работы партийного бюро первичной партийной организации аппарата исполкома Октябрьского райсовета на I квартал 1989 г.
- 24 ОТЧЕТНЫЙ ДОКЛАД партийного бюро первичной партийной организации аппарата исполкома Октябрьского райсовета народных депутатов о работе за период с октября 1985 г. по октябрь 1988 г.
- 25 ПЛАН работы партийного бюро первичной партийной организации аппарата исполкома Октябрьского райсовета на I квартал 1989 г.

Руководство КПСС Местным советом

– Изучение Октябрьского райсовета г. Москвы, 1988-90 г –

Ицуро НАКАМУРА

В своей статье, посвященной анализу Октябрьского районного совета г. Москвы, автор хотел бы остановиться на механизме и характере руководства Октябрьским районным советом Октябрьского районного комитета партии г. Москвы. Вытекает отсюда, что руководство советом партии носит неполитический характер.

Автор побывал Октябрьский район с 1988 года по 1990 и ходил в Октябрьский райком, чтобы доставать партийные архивы.

Октябрьский районный комитет партии прекратил деятельность после августовского события 1991 года. КПСС развалилась из-за отставки М. С. Горбачева от генерального секретаря ЦК КПСС.

Она долгое время занимала политическую власть в Советском обществе и являлась единственной партией.

КПСС строилась по территориально-производственному признаку.

Первичные партийные организации в Октябрьском районе создаются по месту работы коммунистов и объединяются в районный партийный комитет. Основой партии являются первичные организации. Они создаются по месту работы членов партии – на заводах, фабриках, в совхозах и других предприятиях, в колхозах, частях Вооруженных Сил, учреждениях, учебных заведениях и т.п. при наличии не менее трех членов партии.

В Октябрьском районе создаются также территориальные первичные парторганизации по месту жительства коммунистов.

КПСС, в сущности, составляла Советское государство.

Но Конституция СССР закрепляют единую систему органов государственной власти – Советов народных депутатов. В эту систему входят Верховный Совет СССР, Верховные Советы союзных и автономных республик, а также местные Советы: краевые, районные, городские, районные в городах, поселковые и сельские.

Верховный Совет СССР, Верховные Советы союзных, автономных республик являются высшими органами государственной власти соответственно Союза ССР и этих республик. Верховный Совет СССР правомочен решать все вопросы, отнесенные Конституцией СССР к ведению Союза ССР.

Между прочим, вопрос заключается в том, что КПСС, действуя в рамках Конституции СССР, осуществляет политическое руководство государственными и общественными организациями, направляет и координирует их деятельность.

Партийные организации, коммунисты, работающие в государственных и общественных организациях, добиваются по Уставу коммунистической партии советского союза, чтобы эти организации в полной мере осуществляли свои конституционные полномочия, уставные права и обязанности, широко вовлекали трудящихся в управление, решение политических, хозяйственных и социальных вопросов.

На съездах, конференциях, собраниях, созываемых государственными и общественными организациями, а также в выборных органах этих организаций, где имеется не менее трех членов партии, организуются партийные группы. Октябрьский районный совет тоже имеет партийную группу.

По Уставу Коммунистической партии советского союза, задачей этих групп является проведение политики партии в соответствующих внепартийных организациях, усиление влияния коммунистов на положение дел в этих организациях, развитие партийных норм их деятельности, укрепление партийной и государственной дисциплины.

Партийная группа Октябрьского районного совета занимается вопросами по расстановки кадров, в частности, председателя райисполкома, заместителей председателя и секретаря по приказу Октябрьского районного комитета партии. Октябрьский райком руководит райсоветом в следующих вопросах.

- 1) Отчет председателя исполкома райсовета, коммуниста с утверждением партийной характеристики.
- 2) Через первичную партийную организацию в Октябрьском райисполкоме проводить политику партии.
- 3) Расстановка кадров Октябрьского районного совета.

Эти способы являются неполитическим. Потому что эти способы позволяют убирать политическую борьбу в райсовете.